

今月の推薦句

山田真砂年

ざぶざぶと冬菜を洗ひ主婦長き

今村博子

稲架かけて日々見守りのボランテイヤ

岩本尚子

稲埃まぶたに溜めて道祖神

北原昭子

朝刊の傍に夕刊日短か

上田信隆

湯豆腐や昔マルクス・エンゲルス

大坪正美

転ぶなど言うても転ぶ七五三

飛田小馬々

万策のつきし閑けさ枯はちす

槍田良枝

寒月光猛獣は吠え人眠る

沼田布美

表札の無き家増えし枇杷の花

林 恵美子

落柿舎の前の田圃も猪囲

矢代靖子

両眼の達磨どんどに燃えあがる

原田白鷗

シクラメンみな起立して皆やさし

今井 基

枝豆や行きつ戻りつする話

中村かりん

靴磨き終へて時雨となりにけり

池田角之助

草履食ひをのこして終はる七五三

永井三枝

道標の如く行く手にななかまど

深野 怜

霧襖ひらけスワンの湖となり

高田 峰

鮎落ちて水と暮れゆく郡上かな

安藤裕子

自分史に○×は無し山眠る

くぼ六茶

電車音「ごめんごめん」と冬夕焼

戸上晶子

一本をやるといはれて大根引く

関口敦子